

日本勞農黨に關する聲明書

總同盟幹部の大分裂！

飽くまで勞農黨を支持せよ！

如、藤野、兩生等による日本勞農黨の成立が報せられた。それは、明かに、かの鈴木、赤松、松岡等及び藤野等、吉野、堀江等の小ブルジョア野心和を中核とするかの社會民衆黨に對立し、闘争せんとするものである。我々は、大會の決議を無視し、組合大衆の要求を無視して、階級的な大衆的な全國的統一無産階級的勞働農民黨を組織せざるがままに、松岡等の階級が争議にあらざり、しばしば藤野の前に立脚した。それだけではない。全日本の無産階級の利益をブルジョアに賣り渡さんとしてある藤野、鈴木、赤松、松岡等の階級は、既に彼等自ら大衆の眼前に現れた。社會民衆黨の階級のうちの「社會進化の過程を無視する急進主義の政策を採る」とは、明かに階級的統一組織たる勞働農民黨に對抗し、勞働農民大衆の階級的團結に公然と、宣戦を聲明せざるもの外ならない。

この破産的な裏切りによつて、先づ第一に権性となるのは、我々總同盟の組合員であつた。我々組合員は、自らの利益を守り、階級的責任を弁かたかた、自ら立つてかくの如き裏切り反撃し、勞働農民黨を守るために、飽くまで闘はなければならなかつた。

勞働農民黨脱退反對同盟はかくの如き大衆の要求を貫つて

總同盟幹部の分裂

大衆の要求に押されてここに立つて、幹部の間にも、大衆黨が生じた。組合大衆の正當の叫びを聞き以て感服し、安部、吉野、堀江等の小ブルジョア野心的の一階と振舞つて、勞働農民黨の階級的團結を正面から攻撃するたのブルジョアの武器たる新黨を急遽造り上げんとする積極的現實主義者鈴木赤松松岡等と、小ブルジョア階級に感服して反對する組合大衆の階級に押されて、社會民衆黨に追隨することを擁護する中間的態度の保持者藤野、兩生、吉野等。

勞働農民黨第四臨時大會に出席が、其の後十一月三日の中央委員會にて決定した事項は、正に、この階級的關係を露骨せるものであつた。

- (一) 藤野、堀江、吉野三氏の擁護する新黨組織に總同盟の鈴木赤松が協力すること
 - (二) 總同盟は積極的にこの新黨を支持すること
 - (三) 總同盟の支部には無理をなす程度でなるべく速かに新黨に加入すべきこと
 - (四) 特殊の事情ある地方は本部の瞭解を得て右の新黨に加入する單獨の地方政黨をつくること
- 一方では、新黨黨に「協力」し「積極的の支持」するといひながら

鈴木、赤松、松岡等と袖を分つことを決意するに至つた。

かくして生れたものが、かの日本勞農黨である。

日本勞農黨の正體は

依然として小ブルジョアだ！
だがこの日本勞農黨は、たゞ全日本の勞農大衆が、要求する階級的政黨を目指すものであらうか？ 藤野、兩生、吉野等、果して眞實に全日本無産階級の代表者であらうか？ 彼等は果して小ブルジョア政黨の排撃を要求しつゝある總同盟組合員の意志に添ふものであらうか？

階級的な全國的政黨たる勞農黨が幾多の困難を打つて成立し、全無産階級を打つて一丸とする大組織の下に、かのブルジョアの勢力と拮抗せんとしつゝある時、この勞農黨を脱退し、或は妨害せんとするあらゆる計畫は、非無産階級のな計畫なのである。

藤野、兩生等、かの階級的な新黨、赤松、松岡等の社會民衆黨に感服せよ、闘争せんとするならば全日本無産階級の「階級的」大組織の下にこれを

進行しなければならない。即ち、勞農黨に感服し、勞農黨を支持し、勞農黨に参加しなければならぬ指し。

然るに、彼等が彼等自身の導の下に日本勞農黨を新に組織せんとすることは、明かにその手段を誤れるものといはなければならない。今や、あらゆる新黨組織の計畫は、全階級的な勞農黨を排撃するものであり、必然に全日本無産階級の大同團結を阻害する、非無産階級的な、小ブルジョア的なものに考へざるを得ない。

かくの如き状態に陥るならば、我が無産者は、いかにして、かの社會民衆黨日本農民黨と闘ひうるか。

我々は、闘争として、飽くまで勞農黨支持の下に對して闘争しなくてはならぬ。今、既に階級的に勞農黨に参加し、そして、これと拮抗するあらゆる計畫を排撃しなければならぬ。

一切の小ブルジョアの計畫を排撃せよ、勞働農民黨を死守せよ、勞働農民黨に参加せよ。

十一月二十五日

日本勞働總同盟
勞農黨脱退反對同盟
本部事務所 神奈川縣鶴見潮田一五二
橋口方